


12月19日 逍遙 

目の前の「金生通り」は、途切れなく右に左に通り返る車と路面電車、そして人間達の喧騒で溢れかえり、この中を大通りの「向こう」側まで渡ることなど猫のワタシにはとても無理ですが、今、市役所の前まで少しだけ足を伸ばすと、この大通りの「向こう」側に、先程の「金生町」界限とは打って変わって、タイムスリップしたかのようなレトロ情緒溢れる街並みが…

狭い路地と、こぢんまりとした飲食店等が軒を連ねる一画。一日の終わりの夕暮れ時、あちこちの店から漏れる温かな灯りが、猫のワタシの眼には一層鮮やかに浮かび上がります。そして、路地を辿る煙に混じって焼き魚のいい匂いがワタシの鼻まで届き、ゆるりと流れる時間の始まりを知らせるよう…

逍遙館長さんが話してくれた「名山堀」の跡、というのが、きっとこの辺りなのでしょう。江戸時代、この「名山堀」は、鹿児島城の外堀の一つとして、鹿児島湾に面する築地との間にあったそうで、ということは、当時、鹿児島湾はもっと手前まで迫っていたということですね。

次回「すず ご推薦の稼働遺産、のころ」

おわりの夕暮れ時の

温かなはじまり、のころ

